

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団 滋恒会 グループホームなかじま	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月14日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>当事業所は医療法人が運営し、かかりつけ医が毎週往診に来て健康管理をしていますので、本人や家族にとっても安心して暮らしていただいております。そんな暮らしのお手伝いをさせて頂くことを理念としています。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念を食堂の見やすいところへ掲げてあり、利用者や職員はいつも見ることができ、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>理念を食堂の見やすいところへ掲げてあり、利用者や職員は勿論、ご家族や近所の方がいつでも分かりやすくなっています。</p>	○	<p>もっと理解していただけるように、「暮らしのお便り」を回覧していただいている。 これからも続けていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>毎日のご挨拶は勿論、行事があるときは、近所の方に声をかけたり、又逆に声を掛けて頂いたりしています。</p>	○	<p>今まで通り、ホーム主催の盆踊りには近隣の皆さんに参加していただきたいし、行事の内容を検討して、もっと交流の機会を増やしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>勿論、町内会の会員になっていますし、新年総会には欠かせない存在と言われております。その他パークゴルフ大会やその後の焼肉会にも必ず参加しています。毎年行っている盆踊りには、皆さんにお手伝い頂いております。</p>	○	<p>昨年、一昨年バザーに参加し、地元の人々との交流にも役立ったと思う。これからも地域のもよおしなど積極的に参加していきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>介護員が研修に行きキャラバンメイトになり、認知症を理解していただくための、寸劇を地域の方々や他市町村に出向き、広めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	過去の評価で反省する点を改善してきました。自己評価を職員全員が行うなど、積極的に取り組むよう努めています。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進委員会議に協力し意見を聞き地域の行事にも参加し、地域の人たちの関わりをもっていただける様になっています。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進委員メンバーに市町村担当者も加わっていますので必要に応じています。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要な方がいれば、成年後見制度を紹介し、当ホームでも1名の方の関わりについて学びました。(関係機関と相談しました)	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議で意識の向上に努めています。	○ 内部研修ばかりでなく、全職員が外部研修に参加できるようにしていきたいです。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際には、ホームの生活の様子など事前に見学していただき、疑問などがある時は納得できるまで十分な説明を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どんな小さな事でも聞くように努めています。問題があれば緊急に会議を開き、対応しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>金銭管理は金庫で保管し、月末に収支をお便りと一緒に家族の方へ送付しています。体調や暮らしぶりに変化がみられたときは、家族の方へその都度報告しています。</p>	○	<p>新しい職員が入ったときに家族の方へわかるようにお便りにのせて行きたい。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の方が来たときに意見がないか声をかけています。ご意見箱を用意しています。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃から職員との意見交流の場をもうけています。全体に意見を聞く場合は1ヶ月に1回の全体ミーティングに交流しています。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況に変化があった場合、対応できるよう調整しています。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の働きやすい勤務体制にし、休日の希望を聞くなどの環境作りをしています。精神的安定を図り離職は最小限にしています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	<p>実践者研修には必ず一人以上参加するよう計画し、全体ミーティングで研修報告を伝え参加を促していきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	<p>余市GH協議会の会員同士で交流を持ち、意見交換や情報交換を深めていきたいです。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>ストレスをできるだけ軽減できるよう休憩時間の確保に努めていきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>研修した職員より全体ミーティングで発表し、すぐ取り入れられる物を検討し、職員全体が向上心を持ってもらう様に努めています。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居後、慣れるまでは特に不安がおおきいので、家族の方へも説明し連絡を密にとりあい不安をとりのぞけるよう努めています。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>仕事をしている方や、遠方の方もいるので遅い時間でも会いたい時にはいつでも会えるよう対応しています。何でも気軽に話していただけるような雰囲気作りをする努力をしています。</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		<p>入居者に必ず本人家族との面談を行い、担当者を含めた職員で検討するようにしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>御家族の許す限りホームへ足を運んでいただき、ホームの雰囲気、環境、職員とも馴染みの関係が出来るようにしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一緒に家事をしたり共に過すなかで教わることも多く、時には子供になったり孫になったりしながら、笑ったり泣いたりする関係をつくっています。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の方には、近況を必ず報告しています。</p>	○	<p>家族の方の考えにも差があるため、共に支えあうという意識がみられない家族の方もいる。家族の方の協力も必要なことをわかっていただくよう努力していきます。</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族への思いが見られたときには必要に応じて状況を報告、来訪したときにはゆっくりと本人も含めできるだけ対応がとれるよう相談を行っています。</p>	○	<p>家族の方が来てくれることが一番の楽しみでもあるため、来られない時には近況を報告し、関係が遠のいてしまわないように配慮していきたい。</p>
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>床屋は、馴染みのところへ行きたいと思った時に出掛けられるよう支援しています。お墓参りや法事なども支援しています。</p>		
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>状況をみながら、スタッフが見守り必要と思われる時は、仲介に入ったり支援しています。</p>	○	<p>集団生活でもあるため、一人で過ごす時間を考慮したり、良い関係で支え合えるように支援していきたい。</p>
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>来訪した際には、必ず声をかけて状況を確認するようにしています。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時間や就寝時間は本人の意向や希望に添えるようにしている。身体状況の変化があってもそのときの本人の意向にあわせられるよう努めている		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントを行い、本人又は家族の方から情報収集し、把握に努めています。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りノートや、日誌などに記録し引継ぎなどで把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時に生活歴、身体状況を本人、家族から聞きとり担当者とサブ担当者を決め、家族の意見をアセスメントし介護計画を作成しています。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画にそった内容を職員が把握し、定期的に担当者会議を行い、モニタリングを実施している。計画はその都度、必要に応じて見直しています。本人、家族の方に説明し確認していただいています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人別ケア記録、1日の様子を記録し情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	身体介護ばかりでなく、一人ひとりの楽しみや要望を聞き取り、引きだす事に努め、状況を見ながら支援できるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域への行事参加、又ボランティア、学校、民生委員の方々など協力を得ながら外部との融合を図っています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他町村より介護認定調査などで来訪して頂いたとき、日常生活など情報を提供して貰っています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員メンバーとして入っていただいて居りますので、情報などをいただいています。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	週一回の往診があり、変化があればかかりつけ医に受診をしています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当事業所の理事長は、かかりつけ医でもあり、キャラバンメイトの育成研修の講師も勤める認知症の専門医です。そのかかりつけ医に状況の相談をしながら生活しています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業母体が医療法人です。週1回往診時Drより指示依頼がある場合は看護師さんとの相談をしたり、ホームに来ていただくなど健康管理も聞き入れながら行っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は出来る限りスタッフ面会に行き、身体状況や状態変化を医師と確認したり話し合い、出来るだけ早期退院ができるように医療機関との調整、ご家族との連絡を行っています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の意向を重視し、医師とも相談しそのときに必要な方針をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師の指示の下で、家族とも相談しながらその方が安心してその人らしく生活できるようにスタッフ全員で話し合い支援していけるよう努めています。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人家族から生活習慣の聞きとりをし、居室に馴染みのものを持ってきていただき、自分らしく安心できる空間になるよう考慮しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけはその時の状況に合わせるようにしている。悩みがあれば居室で1対1でお話を聞いている。個人記録は職員共有であり、状態を把握するため記録しています。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いや希望に、問いかけはするが、最後は自己決定してもらっています。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴日は本人の希望に添えるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個人の希望にあわせ、馴染みの理容院を利用している。近所の床屋さんも必要な時はホームへ来て協力していただいています。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	下ごしらえや盛り付けなど、出来るだけ職員と一緒にしています。食べられないメニューは個別に対応しています。漬物を作ってもらったり、季節にあったメニューを入居者さんから聞いたりし、楽しむようになるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者の方は場所を決めて対応している。おやつ飲み物などは、自室で自由を楽しまれている。冷蔵庫が自室にある方は週に1度掃除をかねて期限切れのチェックをしている。食堂に冷蔵庫があり自由に使っていただいています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、パターンを把握しプライドを考慮しつつ声かけをしたり個人のその時の状況に応じた支援をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入りたいという希望にあわせて入浴してもたっています。入浴チェック表をみながら、自分から入りたいとは言えない方には声かけをしています。温泉に入りたい希望の方には、一緒に付き添い援助しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時は無理に寝ることを進めるのではなく、眠くなるまで話をしたり見守りをしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出、外食や行事などで気晴らしができて楽しみが作れるよう支援しています。家事や畑、縫い物が得意分野で楽しみを作れるようにしています。掃除や洗濯物たたみ、料理など日課になっている方もいるので、日々が楽しみに過ごせるよう支援しています。	○	常に感謝の気持ちを持ち、毎日支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホーム預かりの小遣い以外自己管理できる方には家族の方とも相談し、お金を持っていただいています。買い物の際、支払いができるよう見守りをしています。本人から買い物を頼まれ、お金を預かる時は、職員2人で確認しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	必ずしも希望にそえない時もあるが、時間を調整したり買い物、散歩、外食など出かけたいと希望があった場合は外出支援は積極的に行っています。	○	急な外出の希望に添えない時もあるが、時間をずらしたりできるだけ外出できるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に2度家族の方にも呼びかけ外食ツアーを実施しています。お弁当をみんなで作り公園などへ出かけています。家族の方との外出は積極的に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話がある方もいるので、かけたい時は自由に話しができるようにしてもらっています。 電話をかけたいと希望がある時には、プライバシーに配慮しながら個別に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方の訪問は歓迎し、居室やリビングでゆっくりと過ごしていただけるようお茶を提供したり、時にはおやつや食事など時間のゆるす限り一緒にすごしていただけるよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議時に研修したり、拘束のない介護に取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	正面玄関にも(夜20時以降のみ)鍵はかけていません。居室も本人の意思により外出時希望がある時のみ鍵をかけるくらいで、鍵をかけることはありません。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	体調や気持ちを考慮しながら自室で長時間過ごされる方には、定期的に訪室し様子観察したり、夜間も2回の巡回はあるが必要であれば巡回以外にも様子の把握に努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて対応している。針、刃物は必要に応じて提供し見守りをしています。	○	危険と思われる時には十分な話し合いをし、一時的に保管するなど常に状況の把握に努めていきたいと思っております。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員間で話し合い、情報を共有し安全で自由な暮らしを送れるよう事故防止に努めています。 ヒヤリハットなど報告は必ず全員が目を通し再発防止対策に努めています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急講習を定期的受講しています。応急手当などマニュアルを用意し職員が見て覚えられるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2度、火災時の避難訓練を実施しています。職員の災害時緊急連絡網を作り災害時対応できるようにしています。夜間一人体制時には不安はあります。	○	地域の人々にも協力を得られるように働きかけていきたいと思います。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段から状況に変化があれば小さな事でも報告することに努め、予測されるリスクについても家族の方に理解して貰えるよう話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	異常の早期発見に努め、職員の引継ぎや日誌などで情報を共有しています。毎日のバイタルチェック、食事量、水分摂取量、排泄回数チェックをし異変に対応できるように努めています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診後職員間で引き継ぎ共有し、処方薬に変化があれば薬チェックノートに記載します。飲み忘れや誤薬防止のため、薬は職員が手渡し見守りをしています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄表を活用しながら食事量、内容、水分摂取量の工夫に努めています。毎日定時に体操を行ったり、日常生活のなかで身体を動かすように心がけています。主治医と相談し下剤などの投薬支援も行っています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立できる方は声がけしても1日1回程度である。自立できない方は、見守りや介助にて義歯の手入れも充分行っています。歯科往診の際に口腔ケアの相談もしています。	○	自発的な口腔ケアが継続していけるよう、支援していきたいと思ます。全職員が口腔ケアの重要性を理解できるように研修をしていきたいです。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に残しながら、一人ひとりに合わせた支援をしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症はマニュアルを作成したり研修したりしています。ペーパータオルを使用しています。インフルエンザの予防接種は入居者さんも職員も全員が受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮で安全な食材を毎日買い出し活用しています。 居室に冷蔵庫がある方もいるので家族の方にも持って来た物を教えて下さるよう伝えている。 週1回賞味期限のチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には春から秋までガーデニングを施しています。敷地に余裕があるので園芸畑や花壇も設置しています。バルコニーが南に面して、広く確保しているのでベンチや日傘を設置し楽しんでいただいています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や観葉植物などを置き、季節に合った飾り物を配置しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたい時は自室へ行かれたり、居室内の訪問なども自由である。食堂やリビング、陽だまりのコーナー、たたみなど思い思いに過ごしていただけるように工夫しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の意志を尊重し、本人が使い慣れた物を持ってきていただいたりして、使いやすようにしていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員が適温だと思っても、お年寄りの方とは温度差があるので、温度・湿度調整はこまめに配慮しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床はバリアフリーで段差がなく歩きやすい工夫をしています。廊下や浴室、トイレに手摺りも設置していますが、個人のADLの状態に合わせ必要な時はすぐに対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室前には自分で作られた表札をかけたたり、好きな物をかざれるボードをかけてあり、混乱を防ぐ工夫をしています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	雪のない季節は、花壇を整備し、園芸畑を作ったり、草むしり手入れが自由にできるようにしています。2階ベランダにも、花や植物を植え 入居さんが手入れをたのしんでいます		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ● 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ● たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ●少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ●職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ●家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームでは、認知症になった高齢者を地域で支えていけるまちづくりに、少しでも力になりたいと思い、厚生労働省の施策であるキャラバンメイトに登録し、「認知症の事を正しく理解していただく」講演と、そのような認知症の方にどう関わっていくかという事を介護劇にし、余市町内は勿論、依頼があれば各市町村へ出向き、認知症をもっと理解していただけるように、公演活動をしています。